

パラリンピック ボランテニアに参加して 自由が丘 斉藤 敦子

この度のtokyo2020 オリンピック、パラリンピックは、最高のメダルを獲得し人々に感動と勇気、希望を与えて無事に終わりました。



2018年秋、ボランテ

ニアの募集がありました。私は右半身に麻痺と運動障害がありますが、私にも出来るかどうかなんて関係ない！平和の祭典であり世界最高峰のオリパラに関わりたい！と応募してみました。8万人のボランテニア募集に対し、20数万人の応募があったそうです。

2019年の春から応募者全員と順次オリエンテーションと面接があり、私は8万人に残ることが出来て、パラリンピックのボランテ

ニアをすることになりました。オンラインで E-learning 研修を数十回受け、2020年から現地会場や、研修センターなどで研修が始まる予定でしたが、2021年の開幕まで全てオンライン研修でした。

私は有明体操競技場で行われるボッチャのボランテニアです。競技会場で、選手や審判の誘導や試合後のコートの消毒やモップがけなどの活動です。

体操競技場の隣には有明アリーナがあり、ここでは車椅子バスケットが行われていました。この2つの会場の駐車場や、駅からの道路、関係者のためのレストランなど、全てのボランテニアは一日に約1000人いるそうです。その中で競技の最先端で活動できるのは一日15人。本当に一握りです。

私はボッチャ中心の障害者スポーツ指導者なので、選んでもらえたいそうです。茨城からの参加なので、全て午後一時からの活動です。毎回通うつもりでしたが、3日で挫折。有明のビジネスホテルに宿泊することにしました。終わるのが夜の9時や10時で

すが、近くにホテルを取ったため、活動終了後も急いで帰ることもなく、色々な方と余裕で友好を深めることができました。

あくまでもボランテニアなので、競技が見える場所であっても、試合を見てはいけません。選手の写真を撮ってはいけません。会場内の写真も SNS には上げてはいけません、などなど沢山の制約がありました。

無観客なので、試合を盛り上げるのもボランテニアの仕事です。入場の際は、動きにくい手が真っ赤になるほど手拍子と拍手で出迎えます。

選手が通る通路には、折り紙で鶴や手毬を折って飾ったり、会場からバスへ向かう選手をボランテニアみんなで並んで見送ったりと、選手が無観客で寂しい思いをしないよう、やる気が保てるように私も真剣でした。

ボッチャは、個人で金、ペアが銀、団体で銅と全てのメダルを獲得しました。

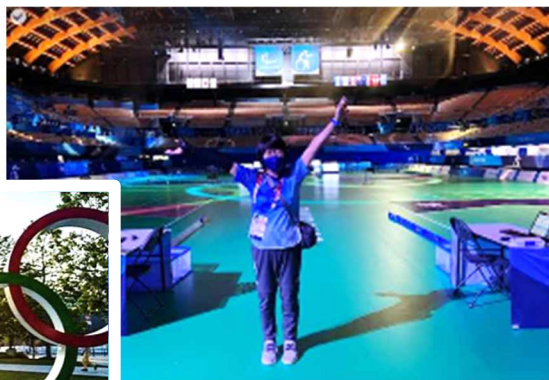
表彰式は、制服を着た自衛隊の方が国旗を持って規律正しく掲揚します。

日本のエース杉村選手が個人で金を取ったとき、日の丸を見上げ

ながらの君が代は今までで一番感動しました。

ボランテニア仲間とコートにモップをかけながら、私たちパラリンピックのコートを掃除してるのよ！などど感無量、全てが感動でした。

夢のようなパラリンピックは終わりましたが、もう生涯経験することはできない、本当に貴重な経験ができて幸せです！



パラリンピック会場 すべての活動を終え、達成感のガッツポーズ！

お疲れさまでした！

